

北海道の印刷

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

第 737 号

[Website] <http://www.print.or.jp>

[E-mail] info@print.or.jp

10

2017

平成29年
10月10日発行

INDEX

印刷燦燦	3
HOPE2017が盛大に開催	4~6
HOPE2017基調講演	7
HOPE2017セミナー	8・9
キャリアアップ助成金案内	10
人事評価改善等助成金案内	11
日印産連印刷功労賞おめでとうございます	12
北海道最低賃金改正	12
平成29年度DTP技能検定案内	12
お悔やみ	12

《表紙》北海道の落差のある滝 No.1 羽衣の滝 (270m)
[10月：上川郡東川町]

北海道印刷工業組合

〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル
TEL.011-595-8071/FAX.011-595-8072

UD
FONT
by MORISAWA

280
古紙パルプ配合率30%再生紙を使用

VEGETABLE
OIL INK

GREEN PRINTING
P-010129
2016年10月10日発行
印刷工業組合連合会

CSR

この印刷物は、CSRに
取り組む印刷会社が製作
した印刷物です。

P-00023

印刷 燦 燦

プリンティング札幌 発刊500号にあたって

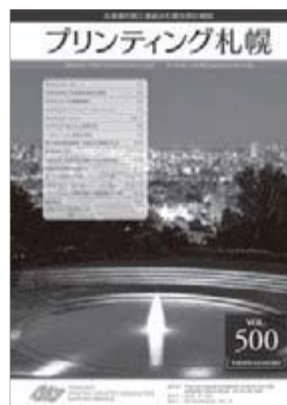
札幌支部組合員の皆様や関連企業・団体の方々へ向けて発行している、「プリンティング札幌」が8月号で発刊500号となりました。これもひとえに皆様方のおかげと感謝申し上げます。

プリンティング札幌は「支部だより」として昭和44年に創刊され48年の間、発刊されてきました。昭和61年に現在の名称である「プリンティング札幌」となりました。この場をお借りして、先人のご苦勞に敬意を表します。

今から48年前というと高度経済成長の真ただ中で人口が増え続け、印刷物の出荷額も右肩上がりであった時代です。文献をひもとくと、コールドタイプ化（写真植字機やコンピューターを用いる製版方式）により「活字よさようなら」の声が起こった時代だそうです。

約半世紀が経ち、我々を取り巻く様々な環境は激変しました。目まぐるしく変わる時代の変遷に私たちは素早く対応し、変革しなくてはなりません。そしてこれからも経済活動のエンジンとして、地元である北海道札幌市、そしてこの業界の発展に努めなくてはなりません。これからも皆さまのお役に立てる媒体として、このプリンティング札幌が少しでも寄与できるよう発刊を進めて参ります。

今後とも、どうぞよろしくお願いたします。



北海道印刷工業組合副理事長、組織・共済事業委員長、札幌支部長 **岸 昌 洋**
株式会社正文舎 代表取締役

HOPE2017が盛大に開催

北海道印刷工業組合と関連4団体で構成するHOPE実行委員会が主催するHOPE (HOKKAIDO PRINT EXPO)2017が、「志あふれる印刷産業へ、期待される価値を求めて」をテーマに、9月1日、2日の2日間、札幌市白石区のアクセスサッポロで開催され、展示会に2,830人、セミナーに607人、合計3,437人の来場者で賑わった。

HOPE2017は、展示会とセミナーの併催で行われ、展示会は42社77小間が出展し、セミナーは実行委員会主催の基調講演とパネルディスカッションおよび11社12セッションの出展社企画セミナーが行われた。

開会式が9月1日午前9時30分から来賓・出展者などが多数出席して開催された。



板倉 清
HOPE実行委員会
会長

最初に、主催者を代表して板倉 清 HOPE実行委員会会長（北海道印刷工業組合理事長）が、来賓と出展者に参加のお礼を述べ、「HOPEは、昨今の印刷産業の置かれている状況に呼応して、これまで培ってきた『北海道情報・印刷産業展』の伝統と成果を踏まえて、昨年より装いを新たに、学びと情報発信の場として開催している。第2回となる今年のHOPE2017は、『志あふれる印刷産業へ、期待される価値を求めて』をテーマに開催する。展示会には42社77小間の出展、セミナーは14セッションの出講をいただき開催の運びとなった。出展、出講いただいた印刷・情報機器、資材メーカーならびに関係各位の協力・理解に心から厚くお礼申し上げます。昨今の道内印刷業界を取り巻く環境は、景気回復は未だ実感できないなかで、社会・経済構造がIoT、AIなどの

新しい技術を中心とした移行期にあり、既存需要の縮小、新規需要創造のための業態変革への転換点に對峙し、新しい発想・目線での経営が余儀なくされており、勝ち残っていくためには、新しい印刷産業へのリ・デザインが求められている。そのためには、ハードとソフトの両方に着眼して、新しい目線で印刷産業を捉えていかなければならない。我々が、再定義を成し遂げ、社会の要求に応えるビジネスを推し進めるためには、自社の設備や技術を向上させることはもとよりであるが、同業者・関連業者・隣接異業種とのコラボレーションを積極的に展開することも勝ち残りのための方策の1つである。加えて、先進事例や、経営・技術環境の動向ならびにユーザーの要望や印刷業界への見かたなどを学び、自社の指針を見出すことは、勝ち残りのための絶対条件になることは自明の理である。HOPE2017は、展示会とセミナーをシナジーし、これらの要求に応える十分な情報発信と学びのプログラムを兼ね備え、新しいかたちの印刷ビジネスを模索する起点となる企画に構成している。HOPE2017が、皆様にとって、自社の新たな価値を見出し、新しいかたちの印刷ビジネスを展開し、発展を続ける契機になれば幸いである」と述べた。

次に、来賓紹介が行われ、代表して4人から祝辞が述べられた。



伊藤英喜
経済産業省
北海道経済産業局
地域経済部長

伊藤英喜 経済産業省北海道経済産業局地域経済部長は、「日本経済はアベノミクスの経済政策の効果もあり、確実に経済の好循環が現れている。一方で投資や消費の動きは未だに力強さを欠いている。こうした状況のなか、IoT、AI、ビッグデータなど第4次産業革命の先端技術を活用した新たな付加価値の創出により直面する諸課題を解決していくことが重要である。経済産業省は昨日、平成30年度の経済産業政策の重点を公表した。そのなかではIoT等によりさまざまなものをネットワーク化し、顧客や社会の課題解決に役立ち、新たな付加価値を生み出す産業社会であるコネクテッドインダストリーズを通じた成長戦略の実現に向け予算や税制などの政策支援を集中させ取り組むこととしている。HOPEの展示会では先端技術を活用した印刷関連の最新機器や技術、サービス等が数多く紹介されると聞いている。まさに経済産業省のコネクテッドインダストリーズの政策とベクトルが一致する取組であり、誠に時宜を得たイベントであると高く評価をしている。北海道経済産業局としても引き続き地域経済の担い手である中小企業の生産現場での人手不足を補い、生産性を向上させ、雇用の確保や賃上げに取り組める事業環境づくりを後押しするため、企業の設備投資や新商品・新サービスの開発を税制や予算など経済産業省のさまざまな施策により支援をさせていただく」と述べた。



新津健次
北海道経済部
産業振興局
産業振興課長

新津健次 北海道経済部産業振興局産業振興課長は、「最近の本道経済は、個人消費の回復や好調なインバウンドをはじめとする来道者数の増加など穏やかに持ち直している一方で、人口減少に伴う需要の減退や人手不足、後継者難による休廃業の増加など地域経済の活力低下を懸念する声も聞かれる。道では将来にわたって本道経済が成長するため、付加価値を生み出し製造業の振興をはじめ新製品開発や新分野進出の支援、官民連携によるファンドを活用した円滑な事業承継の取組、また昨年12月に開設した北海道働き方改革支援センターを核として人材不足への対応やワークライフバランスの実現に向けた取組を促進している。近年、印

刷業界を取り巻く環境はスマートフォンやタブレット端末の普及、電子書籍をはじめとしたデジタルメディアの進展など大きく変化しており、新規需要開拓のために新しい視点・発想での経営が求められている。そのようななか情報機器・資材メーカーの皆様とコラボレーションをし、先進事例や技術動向、ユーザーの視点などを学び、情報を収集・発信する場としてHOPE2017が開催されることは大変意義深い。印刷業界の皆様におかれては、長年にわたり培ってきた高い技術を活かし、本道経済の発展に引き続き貢献いただくことを心より期待申し上げる」と述べた。



奥村彰大
札幌市経済観光局
産業振興部立地促進・
ものづくり産業課長

奥村彰大 札幌市経済観光局産業振興部立地促進・ものづくり産業課長は、「印刷業は、札幌市の製造業にとって大変大事な産業である。出荷額でみると、札幌市の製造業は食品製造業、金属・機械製造業、そして印刷業で、この3つの分野が出荷額において上位を占めている。そういう意味で印刷業が活発なたちで成長を続けることが札幌市にとっても極めて重要である。今、印刷業界は、リ・デザインをキーワードにさまざまな取組をされていると聞いている。まさに業態のリ・デザイン、技術のリ・デザイン、サービスのリ・デザインである。さまざまなところでリ・デザイン、変革というものが求められているのではないかと聞いている。まさに業態のリ・デザイン、技術のリ・デザイン、サービスのリ・デザインである。さまざまなところでリ・デザイン、変革というものが求められているのではないかと聞いている。今、社会経済状況が速いスピードで変わってきているなかで、チャレンジな取組をしていく、変革をしていく、そうした取組に札幌市役所もしっかり応えていきたい。札幌市役所も、つながる、連携をしていくことがこれからの社会のなかでとても大事だと思っている。企業間の連携、産業間の連携、非常にシームレスな社会のなかでの取組にチャレンジしていく企業が1つでも2つでも増えてい

くことにどう応援をしていけるかが私どものミッションである」と述べた。



白田真人
全日本印刷工業組合連合会
会長

白田真人 全日本印刷工業組合連合会会長は、「今回、HOPEのテーマは『志あふれる印刷産業へ、期待される価値を求めて』である。これはまさに全印工連と歩みを共にするものであり、大変心強く喜ばしく思っている。全印工連では現在2025計画、新しい印刷産業へのリ・デザインを着実に進めている。今回のHOPEでも明日、2025計画をテーマにパネルディスカッションが予定されている。計画策定から実践をしている全印工連の精鋭6人が参加する。パネルディスカッションに参加いただき、本当に私どもが考える印刷の未来、そしてどのようなかたちで社会に役に立ち、そして1社1社が力強く経営をしていくのかといったところを共に考えていただきながら学んでいただきたい。社会や産業構造が大きく変化するなかで我々印刷産業が持続的に成長・発展を遂げるためにどのような戦略が必要なのか。これが2025計画の大きなテーマである。これは製造業で長くやってきた私たち自身が数十年前に自覚をしている。私たちが新たな競争力を獲得し、社会から必要とされ続けるためには現在の価値の中心が今後どこに移っていくのかを良く見極めて発想の転換をし、起こりつつある課題に対して適切に行動していくことが最も重要である。現在、全印工連の会員数は全国で約5千社ある。各社がこの大きな変革のなかでも存続しているのは5千社には5千通りの、その会社にしかない価値、社会に



対する役立ちがあるからである。5千通りの価値を私たち経営者はいつでも時代の変化に合わせて役立ちを探している。それをしっかりものにしようと従業員とともに常に努力をして、結果として社会に奉仕している。社会の役にたとうと前を向く姿勢、これこそ私の考える経営者の志の定義である。HOPEに参加される皆様が自社の役立ち、社会貢献をより深く考え、印刷産業の存在価値をさらに一層高めるための学びと未来への情報を掴んでいただく場となるよう心より祈念申し上げます」と述べた。

次に、来賓の伊藤英喜 経済産業省北海道経済産業局地域経済部長、新津健次 北海道経済部産業振興局産業振興課長、奥村彰大 札幌市経済観光局産業振興部立地促進・ものづくり産業課長、白田真人 全日本印刷工業組合連合会会長、福迫 均 北海道中小企業団体中央会専務理事、板倉 清 HOPE実行委員会会長によるテープカットが行われ、開幕した。

正しい経営をすると必ず利益が付いてくる

HOPE2017基調講演で、作道孝行氏が実践を呼びかける

HOPE2017基調講演が、9月1日午前10時から、札幌市白石区のアクセスサッポロで、作道印刷株式会社（大阪府）代表取締役の作道孝行氏を講師に迎え、「『見える化』による業務改善とそれを支える公平な評価制度」をテーマに、80余人が参加して開催された。



作道講師は、「見える化と
言うとはMISやBIなどのシ
ステムの話になりがちだが、経
営者と従業員がきちりと目的
を共有しないと使いこなせない。
経営者がデータをオープン

にしていないところが多く、決算書をオープンにする
だけではなくデータに網を掛けて項目別、担当者別な
どそれぞれに合ったデータを見せなくては意味がない
し、情報の鮮度も重要になる」と実践する上でのポ
イントを示し、「会社は利益を出していかななくてはな
らず、そのためにどうするか。売上を上げるか、コスト
を下げるか、その両方をやるか、これしかない。企業
として売上を上げる仕組みを作り、同時に社内をどう
合理化するか。それをやる上で『見える化』は重要
になる」と取り組む意義を強調した。

また、売上を上げるための「提案の創造」やコスト
を削減するための方策を具体的に説明した上で、企業
の発展につなげるためには人事評価制度が重要になる
ことを指摘し、「社員の気づきを引き出すための見え
る化をしなくてはならない。自発的に気付くようにな
ると、社員が経営者感覚を持つようになる」などと、結果
に対して公平で「互いの納得感」が得られる透明性が
ある絶対評価の人事評価制度の必要性を示した。



さらに、作道講師は、自身の経験から設計上のポ
イントとして、①行動目標の明確化、②適切な評価目
標の設定、③労使合意の上での目標設定、④中小企業で
運用できる制度を挙げた。

さらに、「企業存続のためには、変化をし続けな
ければならない。顧客のニーズは毎年進化しており、顧
客に言われて変化していると儲からない。儲けるため
には顧客の一步先を行き、言われる前に変化をし続け
ることである。言われてからでは利益も付加価値も
生まれないし、100点をとっても当たり前だが、言われ
る前であれば60点でも評価される。自分のところで
イニシアチブを取りやすくし、ロスを少なくして顧客を
引っ張っていくと、スケジュールも自分本位で利益が
取りやすい」と訴えた。

最後に、作道講師は、「自分のために変わるので
はなく、人のために変わり続ける組織にすることであ
る。正しい経営をすると必ず利益が付いてくる」と結
んだ。

HOPE2017セミナー開催される

600人超が受講

HOPE2017セミナーが、9月1日・2日の2日間、札幌市白石区のアクセスサッポロで、実行委員会主催の基調講演、パネルディスカッションと11社12セッションの出席社企画セミナーが、600人を超える受講者が参加して開催された。セミナーを写真グラフで紹介する。

9月1日 金

基調講演



提供会社：HOPE実行委員会

テーマ：「見える化」による業務改革とそれを支える公平な評価制度

講師：作道印刷株式会社 代表取締役 作道 孝行 氏

セミナー①



提供会社：リコージャパン株式会社

テーマ：分かる、伝わるを考えた情報作成。
～メディア・ユニバーサルデザイン (MUD) で情報保障を実現し他社と差別化を図る～

講師：株式会社一心社 代表取締役社長 浦久保 康裕 氏

セミナー②



提供会社：キヤノンマーケティングジャパン株式会社

テーマ：AGFAが提唱するスマートワークフローと
Canonデジタル印刷機の相互連携による導入効果

講師：日本アグファ・ゲバルト株式会社
マーケティング本部 システムコンサルタントグループ マネージャー 兼田 克史 氏

セミナー③



提供会社：株式会社小森コーポレーション

テーマ：枚葉印刷機のトラブルシューティング
～不機嫌な印刷現場の直し方～

講師：株式会社小森コーポレーション
PESP事業推進部営業技術課 白石 徹 氏

セミナー④



提供会社：富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社

テーマ：ものづくり補助金の申請書作成のポイント・税制優遇情報の紹介

講師：富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社
技術二部 課長 野原 学 氏

セミナー⑤



提供会社：ハイデルフォーラム21北海道地区会

テーマ：企業経営における人財育成と社員の誇り

講師：株式会社クイックス 代表取締役社長 岡本 泰 氏

セミナー⑥



提供会社：コニカミノルタジャパン株式会社

テーマ：コニカミノルタの顧客付加価値提案の取り組み
～顧客マーケティング支援の事例紹介～

講師：コニカミノルタジャパン株式会社
PPG事業本部 マーケティング&サポート統括部長 寺崎 薫 氏
PPG事業本部 IP事業推進部長 須田 徹 氏

9月2日(土)

パネルディスカッション



提供会社：HOPE実行委員会

テーマ：全印工連2025計画「リ・デザインで印刷はこう変わる」

ファシリテーター：株式会社協進印刷

代表取締役 江森 克治 氏

パネリスト：池田印刷株式会社

代表取締役 池田 幸寛 氏

滝澤新聞印刷株式会社

代表取締役 滝澤 光正 氏

弘和印刷株式会社

代表取締役 瀬田 章弘 氏

株式会社プライズコミュニケーション

代表取締役 小野 綾子 氏

六三印刷株式会社

専務取締役 三島 秀夫 氏

セミナー⑦



提供会社：株式会社モリサワ

テーマ：「戸谷メソッド」営業が楽しくて仕方が無い！
右肩上がりの波をつくる

講師：Sorriso (ソリーゾ) ビジネススキルインストラクター 戸谷 有里子 氏

セミナー⑧



提供会社：富士ゼロックス株式会社

テーマ：webとPODを活かしたおもてなしプロモーション
～顧客価値をとらえ、効果の高いバージョン戦略を実現する～

講師：富士ゼロックス株式会社

市場・営業戦略部 営業企画グループ 柳原 公揮 氏

セミナー⑨



提供会社：東洋インキ北海道株式会社

テーマ：進化する「高感度/LED」UV印刷

講師：東洋インキ株式会社

技術センターテクニカルソリューションセンター長 細井 功 氏

セミナー⑩



提供会社：リコージャパン株式会社

テーマ：響くブランディングデザイン

講師：株式会社SEデザイン

代表取締役社長 篠崎 晃一 氏

セミナー⑪



提供会社：コダック合同会社

テーマ：明日から使える完全無処理CTPプレート

～SONORA XJが市場に受け入れられた訳とは？&ワークフローソリューションの進化と今後の展望～

講師：コダック合同会社

プロセスフリープレート推進室長 中川 武志 氏

ソフトウェア&ソリューション事業部 UWS本部長 根本 憲之 氏

セミナー⑫



提供会社：環境保護印刷推進協議会

テーマ：私たちは「環境」にこだわる「理由」があります

講師：環境保護印刷推進協議会

元理事/現WGアドバイザー 小野 克己 氏

WGスタッフ 北濃 克海 氏

キャリアアップ助成金のご案内

有期契約労働者、短時間労働者、派遣労働者といった、非正規雇用労働者の企業内でのキャリアアップ等を促進するため、正社員化、人材育成、処遇改善の取組を実施した事業主に対して助成する制度です。

※中小企業の金額のみ記載

助成内容		助成額※ 〈 〉は生産性の向上が認められる場合
正社員化 コース	有期契約労働者等を正規雇用労働者等に転換 または直接雇用した場合	①有期→正規 1人当たり57.0万円〈72万円〉 ②有期→無期 1人当たり28.5万円〈36万円〉 ③無期→正規 1人当たり28.5万円〈36万円〉
人材育成 コース	有期契約労働者等に次のいずれかの 訓練を実施 ・一般職業訓練（OFF-JT） ・有期実習型訓練 （「ジョブ・カード」を活用したOFF-JT+OJT）	OFF-JT 賃金助成：1h当たり760円〈960円〉 経費助成：実費助成 （※訓練時間数に応じて1人当たり次の額を限度） 100時間未満：10万円（※15万円） 100時間以上200時間未満：20万円（※30万円） 200時間以上：30万円（※50万円） （※有期実習型訓練後に正規雇用等に転換された場合） OJT 実施助成：1h当たり760円〈960円〉
賃金規定等 改定コース	全てまたは一部の有期契約労働者等の 基本給の賃金規定等を増額改定した場合	①全ての賃金規定等を2%以上増額改定 対象労働者数が1人～3人： 9.5万円〈12.0万円〉 4人～6人： 19.0万円〈24.0万円〉 7人～10人： 28.5万円〈36.0万円〉 11人～100人：1人当たり 2.85万円〈3.6万円〉 ②雇用形態別、職種別等の賃金規定等を2%以上増額改定 対象労働者数が1人～3人： 4.75万円〈6.0万円〉 4人～6人： 9.50万円〈12.0万円〉 7人～10人： 14.25万円〈18.0万円〉 11人～100人：1人当たり1.425万円〈1.8万円〉 ※中小企業において3%以上増額した場合①：1.425万円〈1.8万円〉加算、 ②：0.76万円〈0.96万円〉加算 ※「職務評価」の手法により実施した場合1事業所当たり19万円〈24万円〉加算
健康診断 制度コース	有期契約労働者等を対象に「法定外の健康診断 制度」を新たに規定し、4人以上に実施した場合	1事業所当たり38万円〈48万円〉
賃金規定等 共通化コース	有期契約労働者等と正社員との共通の賃金規 定等を新たに規定・運用した場合	1事業所当たり57万円〈72万円〉
諸手当制度 共通化コース	有期契約労働者等と正社員との共通の諸手当 制度を新たに規定・運用した場合	1事業所当たり38万円〈48万円〉
選択的運用 拡大導入時 処遇改善 コース	選択的運用拡大の導入に伴い、社会保険適用と なる有期契約労働者等の賃金の引上げを実施 した場合	基本給の増額割合に応じて、1人当たり 3%以上 5%未満：1.90万円〈2.4万円〉 5%以上 7%未満：3.80万円〈4.8万円〉 7%以上10%未満：4.75万円〈6.0万円〉 10%以上14%未満：7.60万円〈9.6万円〉 14%以上 :9.50万円〈12.0万円〉
短時間労働者 労働時間 延長コース	有期契約労働者等の週所定労働時間を5時間 以上延長し、社会保険を適用した場合	1人当たり19万円〈24万円〉 ※上記「賃金規定等改定コース」または「選択的適用拡大導入時処遇改善 コース」と併せ、労働者の手取りが減少しない取組をした場合、1時間以上 5時間未満延長でも助成 1時間以上2時間未満： 3.8万円〈4.8万円〉 2時間以上3時間未満： 7.6万円〈9.6万円〉 3時間以上4時間未満： 11.4万円〈14.4万円〉 4時間以上5時間未満： 15.2万円〈19.2万円〉

◎支給のための要件、手続きなどの詳細は、北海道労働局（電話011-709-2311）または最寄りのハローワークへお問い合わせください。

人事評価改善等助成金のご案内

「人事評価改善等助成金」は、生産性向上のための人事評価制度と賃金制度の整備を通じて、生産性の向上、賃金アップおよび離職率の低下を図る事業主に対して助成するもので、人材不足の解消を目的としています。

助成金の概要

A 制度整備助成：50万円

事業主が、生産性向上のための人事評価制度と2%以上の賃金のアップを含む賃金制度（以下「人事評価制度」と表記する）の整備、実施した場合に制度整備助成金（50万円）を支給します。

B 目的達成助成：80万円

Aに加え、1年経過後に人事評価制度等の適切な運用を経て、生産性の向上、労働者の賃金の2%以上アップ、離職率の低下に関する目標のすべてを達成した場合、目標達成助成（80万円）を支給します。

助成金支給までの流れ

1 人事評価制度等整備計画の作成・届出

（提出期間内に、本社の所在地の管轄する都道府県労働局へ提出）

2 認定を受けた①の整備計画に基づく人事評価制度の整備

（労働協約または就業規則に明文化することが必要）

3 人事評価制度等の実施

（全ての正規労働者が実施することが必要）

4 A 制度整備助成の支給申請

【提出期間】2%以上の賃金がアップするものとして整備した人事評価制度等に基づく賃金が最初に支払われた日の翌日から起算して2か月以内

（本社の所在地を管轄する都道府県労働局へ提出）

5 助成金支給
50万円

B 目標達成助成金の支給申請

【提出期間】評価時離職率算定期間※の末日の翌日から起算して2か月以内
※人事評価制度等に基づく賃金が最初に支払われた日の翌日から12か月間

（本社の所在地を管轄する都道府県労働局へ提出）

助成金支給
80万円

◎支給のための要件、手続きなどの詳細は、北海道労働局（電話011-709-2311）へお問い合わせください。

日印産連印刷功労賞おめでとうございます



一般社団法人日本印刷産業連合会の「2017印刷の月記念式典」が、9月13日、東京都千代田区のホテルニューオータニで開催され、その席上、業界の振興発展に貢献された方々の表彰が行われ、北海道から板倉 清氏が印刷功労賞を受賞した。

板倉 清氏 全日本印刷工業組合連合会常務理事
北海道印刷工業組合理事長／株式会社アイテックサプライ代表取締役／札幌支部

北海道最低賃金改正

平成29年10月1日改定

北海道内で事業を営む全産業の使用者およびその事業場で働くすべての労働者（臨時、パートタイマー、アルバイト等を含む）に適用される北海道最低賃金（地域別）が、次のとおり改定された。

最低賃金額	時間額 810円	効力発生日	平成29年10月1日
-------	----------	-------	------------

- 最低賃金には、精皆勤手当、通勤手当、家族手当、臨時に支払われる賃金および時間外等割増賃金は算入されない。
- 最低賃金額以上の賃金を支払わない場合は、最低賃金法違反として処罰されることがある。

平成29年度DTP技能検定のご案内

厚生労働省の平成29年度技能検定製版職種「DTP作業」が実施される。

同職種は、試験内容と実際の業務との乖離が大きかったため、平成26年度と同27年度の2年間、開催を休止していたが、全日本印刷工業組合連合会が中心となり、試験内容の検討・見直しを行い、新たな検定試験に刷新が行われ、昨年より実施が再開された。

DTP作業従事者の皆さんへの教育の一環として活用でき、スキルアップに繋がる。
平成29年度後期に実施される製版職種「DTP作業」の主な内容は次のとおり。

【平成29年度後期技能検定製版職種「DTP作業」】

受検申請受付	平成29年10月2日(月)～13日(金)		
実技試験日程	平成30年1月27日(土)		
実技試験会場	北海道立札幌高等技術専門学院（札幌市東区北27条東16丁目）		
学科試験日程	平成30年2月4日(日)		
学科試験会場	札幌市・旭川市・函館市・滝川市・北見市・室蘭市・帯広市・釧路市の指定する会場		
実技試験内容	DTPアプリケーションを使用し、提示された指定書により、支給された課題データを組版・編集し、カラープリンターにより出力する。		
受検区分	1級および2級	受検手数料	実技17,900円／学科3,100円 ※35歳未満の2級実技受検手数料は9,000円減額になる。
受検申請・問い合わせ先	北海道職業能力開発協会または各地方職業能力開発協会		

お悔やみ

西口 徹氏（有限会社プリント・プロ写楽代表取締役社長）は、8月18日、ご逝去されました。72歳。
通夜は、19日午後7時から、告別式は20日正午から、いずれも帯広市内の公益社市民斎場でしめやかに執り行われました。